

平成30年度特別展 「獣脚類：鳥に進化した肉食恐竜たち」の展示概要

1 展示の概要

展示は大きく5つのセクションに区分し、テーマ別に標本を展示する。第1セクションでは、大型獣脚類の展示をメインに、獣脚類の出現から、地上の捕食者として台頭していく過程を辿る。第2セクションでは、原始的なコエルロサウルス類の展示を中心に、鳥類に受け継がれる羽毛の獲得とその進化史を紹介する。第3セクションでは、草食性や雑食性のマニラプトル型類の展示を通じて、食性の変化に伴う特徴の変化について解説。第4セクションでは、樹上での生活に適應や、滑空による飛行を行ったと考えられる小型獣脚類を展示し、鳥類の出現の背景を解説。第5セクションでは、羽ばたいて飛ぶことが出来るようになった鳥類とその直近の祖先に焦点をあて、その後の進化史を辿る。

2 展示ゾーン

(1) 獣脚類の出現

ア 内 容

獣脚類はいつ・どのようにして生まれ、どのように適應放散していったのか。大型獣脚類の展示をメインに、獣脚類の原始的な特徴を紹介し、獣脚類の出現から、地上の捕食者として台頭していく過程、およびその生態と多様性を解説する。

イ 展示資料

アベリサウルス頭骨

カルノタウルス全身骨格

ピアトニツキーサウルス全身骨格（日本初公開）

バリオニクス全身骨格

ネオベナートル全身骨格（イギリス国外初公開）

ネオベナートル実物化石（イギリス国外初公開）

メガラプトル全身骨格

リムサウルス実物産状化石

チレサウルス産状化石 他

(2) 羽毛をまとった獣脚類

ア 内 容

ジュラ紀後期に出現したコエルロサウルス類と呼ばれる獣脚類は、鳥類に受け継がれる羽毛を全身にまとい、体温を保つことで活動性を高めていた。コエルロサウルス類の出現と初期進化、そしてそこから派生したティラノサウルス類の大型化の過程に迫る。

イ 展示資料

ズオロン実物化石（日本初公開）
アオルン頭骨（日本初公開）
ビスエンテナリア全身骨格（日本初公開）
シノサウロプテリクス全身骨格
ディロング産状化石
ディロング全身骨格
チエンジョウサウルス頭骨（日本初公開）
ティラノサウルス頭骨 他

（3）生態の多様化

ア 内 容

羽を持つようになったマニラプトル型類は、草食や雑食、昆虫食など、多様な食性に適応していた。近年発見が相次いでいる肉食以外の獣脚類を紹介しながら、従来の肉食性からの変化の過程を解説する。

イ 展示資料

シノルニトミムス産状化石
ガリミムス全身骨格
ハプロケイルス実物化石
モノニクス全身骨格
ファルカリウス全身骨格
ベイピャオサウルス産状化石（日本初公開）
アラシャサウルス全身骨格
インキシボサウルス頭骨
カウディプテリクス実物産状化石
アジャンキングニア全身骨格 他

（4）樹上から空へ

ア 内 容

地上から樹上へと生活の場を拡げ、木々の間を滑空して移動できるようになった原始的なパラヴェス類を紹介するとともに、鳥類の出現の背景を解説する。また、パラヴェス類から派生し、地上の捕食者として繁栄したデイノニコサウルス類や、その中でも特に大型化したものも紹介する。

イ 展示資料

エピデクシプテリクス実物化石
イー実物産状化石（日本初公開）
アンキオルニス実物産状化石
マイクロラプトル実物産状化石
シノルニトサウルス実物産状化石
ティアニューラプトル産状化石（日本初公開）

リンハラプトル実物化石
ブイトレラプトル全身復元骨格（日本初公開）
ウストロラプトル全身復元骨格（日本初公開） 他

（5）大空への飛翔

ア 内 容

鳥類の一手手前の段階であるアヴィアラエ類は、前肢だけでなく後肢にも翼を持っていた。しかし鳥類になると、前肢の翼で羽ばたいて飛ぶようになり、後肢の翼は失われていった。原始的なアヴィアラエ類と鳥類の化石の展示を通じて、鳥類の初期進化とその後の多様化について解説する。

イ 展示資料

アウロルニス産状化石
獣脚類の羽毛が入った琥珀（日本初公開）
シャオティンギア産状化石（日本初公開）
ジェホルニス実物産状化石
エオコンフキウソルニス実物産状化石（日本初公開）
チョンミンギア実物産状化石（日本初公開）
カタイオルニス実物産状化石
サペオルニス実物産状化石
ケレンケン全身骨格（日本初公開）
ペラゴルニス全身骨格（日本初公開） 他

3 映像コーナー

（1）、（3）、（5）のゾーンに獣脚類の進化の様子や、獣脚類および鳥類の飛行の様子の再現 CG 映像を設置し、展示に動的な楽しさを付加する。